

再評価結果（令和8年度事業継続箇所）

担当課: 道路局 国道・技術課

担当課長名：西川 昌宏

事業名	ひだか 日高自動車道(一般国道235号) あつが しづない 厚賀静内道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北海道開発局
起終点	自: 北海道沙流郡日高町字美原 至: 北海道日高郡新ひだか町静内神森	ほっかいどう さる ひだか みはら ほっかいどう ひだか しん しづないかみもり	延長	16. 2km	

事業概要

日高自動車道は、苫小牧市を起点とし、浦河町に至る高規格道路である。

厚賀静内道路は、高速ネットワークの拡充による近隣都市間の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び国際拠点港湾苫小牧港、拠点空港新千歳空港等への物流効率化等の支援を目的とした延長16.2kmの事業である。

H7年度事業化		一	H23年度用地補償着手	H23年度工事着手
全体事業費	約985億円	事業進捗率 (令和7年3月末時点)	約83%	供用済延長 9.1km

計画交通量 10,000~11,400台/日

費用対効果分析	B/C (事業全体)	EIRR (事業全体)	総費用 (残事業)/(事業全体)	総便益 (残事業)/(事業全体)	基準年 令和7年	
	1.2 (0.9) (参考) 1.6 (1.5) [2%] (参考) 1.8 (2.0) [1%]	5.0% (3.7%)	895/8,732億円 事業費: 813/8,015億円 維持管理費: 77/ 553億円 更新費: 4.8/ 165億円	1,871/10,770億円 走行時間短縮便益: 1,628/9,272億円 走行経費減少便益: 204/1,187億円 交通事故減少便益: 40/ 310億円		
感度分析	(残事業)		(事業全体)		(残事業)	
	2.1 (5.1) (参考) 3.0 (7.1) [2%] (参考) 3.7 (8.5) [1%]	8.9% (18.4%)	交通量	B/C=1.1～1.4(±10%)	交通量	B/C=1.8～2.4(±10%)
			事業費	B/C=1.2～1.2(±10%)	事業費	B/C=1.9～2.3(±10%)
			事業期間	B/C=1.2～1.2(±20%)	事業期間	B/C=2.0～2.2(±20%)

事業の効果等

事業の必要性及び効果

- ① 畜産品の流通利便性向上
・速達性及び安定性の高い輸送ルートが確保され、畜産品の流通利便性向上が期待される。

② 農産品の流通利便性向上
・物流拠点への速達性及び安定性の高い輸送ルートが確保され、農産品の流通利便性向上が期待される。

③ 緊急輸送ルートの強化による迅速な道路啓開の支援
・津波浸水想定区域を回避するルートが確保されるなど、災害時の緊急輸送ルートが強化され、迅速な道路啓開の支援が期待される。

④ 救急搬送の速達性・安定性向上
・並行する国道235号の信号交差点を回避し、高次医療施設までの所要時間が短縮され、救急搬送の速達性・安定性向上が期待される。

⑤ 移住・交流人口の拡大による地域活性化
・速達性の高い道路ネットワークが確保されることで、移住・交流人口が拡大し、地域活性化の支援が期待される。

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等:

浦河町など1市11町の首長等で構成される「高規格道路日高自動車道早期建設促進期成会」等より整備促進の要望を受けています。

知事の意見:

「日高自動車道(一般国道235号)厚賀静内道路」事業を「継続」とした「対応方針(原案)」案について、異議はありません。

当該事業は、高速ネットワークの拡充による近隣都市間の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び国際拠点港湾苫小牧港、拠点空港新千歳空港等への物流効率化に寄与することから、早期供用をお願いいたします。

なお、事業の実施に当たっては、周辺環境への影響を最小限にとどめるとともに、より一層の徹底したコスト縮減を図り、これまで以上に効率的・効果的な執行に努めるようお願いいたします。

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・平成10年 3月 日高自動車道 苫小牧東IC～沼ノ端西IC開通
- ・平成10年 7月 日高自動車道 沼ノ端西IC～厚真IC開通
- ・平成15年 8月 日高自動車道 厚真IC～鵡川IC開通
- ・平成18年 3月 日高自動車道 鵡川IC～日高富川IC開通
- ・平成18年 3月 鵡川町、穂別町が合併し、「むかわ町」となる
日高町、門別町が合併し、「日高町」となる
静内町、三石町が合併し、「新ひだか町」となる
- ・平成20年 8月 苫小牧港 国際コンテナターミナルが東港区へ移転
- ・平成22年 3月 新千歳空港 国際線ターミナル運用開始
- ・平成23年 4月 苫小牧港 国際拠点港湾に指定(特定重要港湾から名称変更)
- ・平成24年 3月 日高自動車道 日高富川IC～日高門別IC開通
- ・平成27年 9月 様似町 アポイ岳ジオパークが世界ジオパークに認定
- ・平成30年 4月 日高自動車道 日高門別IC～日高厚賀IC開通
- ・令和 2年 3月 新千歳空港国際線ターミナルビル拡張工事完了
- ・令和 2年 7月 白老町 ウポポイ(民族共生象徴空間)開業
- ・令和 2年 12月 北海道縦貫自動車道 苫小牧中央IC開通
- ・令和 6年 6月 日高山脈襟裳十勝国立公園に指定
- ・令和 7年度 日高自動車道 日高厚賀IC～新冠IC 開通予定

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成23年度に工事着手して、用地進捗率約96%、事業進捗率約83%となっている。

(令和7年3月末時点)

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

埋蔵文化財発掘調査の進捗を図り、引き続き、早期開通に向けて事業を進める。

施設の構造や工法の変更等

引き続きコスト縮減に取り組んでいく。

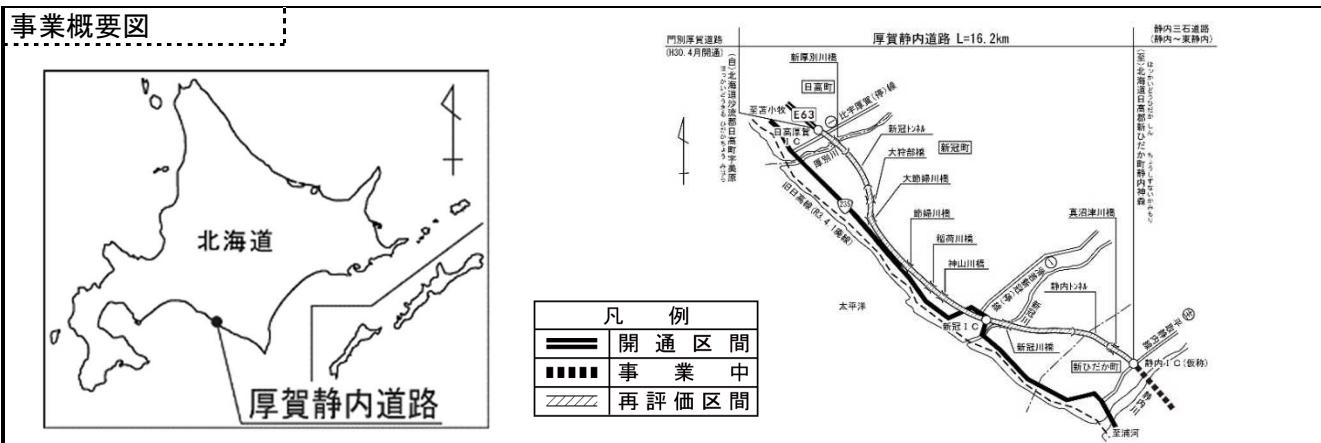
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。(〔 〕内は社会的割引率の値)

※B/Cの値は、苫小牧東IC～浦河を対象とした場合、()書きの値は事業化区間を対象にした場合の費用便益分析結果。